

## 学校評価総括

本校では、毎年「より良い学校づくりのためのアンケート」を実施しており、今年度も、生徒、保護者、教員に対しアンケートを行った。質問は15項目あり、「教育目標から」「めざす教師の姿から」「重点項目から」の3つの柱を中心に構成されている。「教育目標から」は「本校の目指す生徒像」に関する項目（あ 挨拶、い 意欲、う 美しい環境、え 笑顔、お 思いやり）となっている。

### <学校評価より>

#### ○生徒・保護者の評価を受けて

本校は学校教育目標「豊かな心をもち、ともに学び、未来に向かってたくましく生きる生徒の育成」を目指し、日々学校運営を行っている。今年度も生徒主体の様々な行事が行われ、昨年度に引き続き、「⑩学校行事を通じて生徒の活躍の場を設けている」の項目で高い評価をいただいた。また、教職員一同、生徒理解に努め、個々のよさを見いだし、支援し育てるために、「対話」や「生徒とともに活動すること」を大切にして教育活動を行ってきた。その結果、「④生徒は、笑顔で、生き生きと学校生活をしている」、「⑥職員は、生徒理解に努め生徒と共に行動している」の評価でも高い評価をいただいた。しかし、「③生徒は、清掃・整理整頓に努めている」、「⑦職員は、わかりやすい授業になるように取り組んでいる」、「⑪誉田中は、学力の向上を目指して活動している」、「⑫誉田中は、家庭学習の習慣化のための指導・支援をしている」の項目では、課題が見られた。

#### ○三者の比較から

全体として、数値は保護者、職員、生徒の順に高くなっている傾向がある。これは生徒たち自身が「日々の活動を頑張ることができている、自分ならできると」思っていると読み取れ、自己有用感、自己肯定感が少しずつ高まっていると言える。逆に職員の数値は昨年度よりも下がった項目が多い。単純に不十分であると思っている項目もあるかもしれないが、それ以上に、職員が現状に満足せずもっとできるはずであるという自身への反省と生徒たちへの期待の表れだとも言える。保護者については、職員よりも少しだけ低い数値が多く、傾向は似ている。次年度は、生徒・職員・保護者ともに「そう思う」と思う項目が増えるように、分析したことを下記のように生かしていきたい。また、学校評価アンケートをより学校運営に生かしていくために、年1回ではなく、前期・後期の2回行うことを検討している。

### <次年度に向けて>

#### ○確かな学力をもつ生徒の育成について

学習に遅れがちな生徒が、通常の授業についていけない状況がある。今年度も実施している家庭学習ノートの提出や放課後・夏休みの学習相談等により、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要がある。生徒が家庭学習を円滑に行えるようにするには、授業内容や家庭学習の進め方のポイントなどを理解している必要がある。教職員は、日々「わかる授業」を意識し、「どんなことを大切にして学習を進めればよいのか」、つまずきのある生徒に寄り添っていききたい。また、学活や総合的な学習の時間を活用し、人間関係づくりや進路についての学習を行っていく。そうした様々な活動を通して、この予測困難な時代を生き抜く、確かな学力をもった生徒の育成に努めていく。

#### ○学校教育目標の実現に向けて

豊かな心をもつ生徒の育成のため、一人一人のよさを見いだし、認め、褒め、伸ばす生徒理解に努めていく。また、道徳教育を中心に心の教育の充実を図り、定期的に教育相談を行うことによって、生徒の悩みに寄り添っていく。そして、環境委員会の活動を活発化し、よりよい清掃活動ができるようにするなど、今年度同様、学校行事や生徒会活動で生徒が主体となり、生き生きと学校生活が送れるように支援していく。